＜解説＞

中国における世代間交流：過去と現在

黄　新明　信州大学教育学部
施　一昕　中国北京外国語大学

Intergeneration Program in China: the Past and the Present

HUANG Xinming: Faculty of Education, Shinshu University
SHI Yixin: Beijing Foreign Studies University, China

Something on the intergeneration program in China will be described. Intergeneration communication was based in family, but it becomes a social problem with economic development and progress of the aging society in China. Especially, in large city, such as Beijing or Shanghai, the problem is more apparent. As a common problem, intergeneration communication between the old and the middle age in China is similar to that in other countries. However, intergeneration communication between adults and children is a special problem. Because of the policy of one child for one family, most of the families have only one child, thus, how to cultivate the single child is a big problem in China.

［キーワード］ 世代間交流　中高年　子供　中国

世代間交流ということは，世代間に溝が生じていることが前提で存在することである．いわゆる Generation gap はある程度豊かになった国々だけの現象であろう．少なくとも，それほど豊かになっていない国では，表にでていない現象である．二，三十年前に，中国では世代間交流ということは決して話題になっていなかった．衣食住の問題はまだ解決できていない状態で，食べて生きることに精一杯の時代には，いわゆる精神的な世代間交流ということについて，やはり議論する余裕はなかった．一方，多くの家庭は２世代あるいは３世代同居しており，日常の生活での触れ合いで世代間交流が自然に行われていた．社会問題の一つとしては，まだ存在しなかった．もちろん，世代間交流を目的として同居していたのではなかったので，決して高いレベルの交流とは言えない．そのような交流は，家庭内での物質的，あるいは生活の世話に限られていた．心の交流はほとんどなかったとも言える．このような状況は，貧困な山間部では未だに存在している．世代間交流について，具体的に以下のように，２つに分けて述べる．

1．老人問題

近年，中国では，特に大都市では，人々の生活が次第に豊かになっている．一方，人口の老齢化の問題は，世界各国の共通の現象であり，中国においても例外ではない．中国の人口統計によれば，２０２５年に，老人の割合は２０％に達する見込みである．すなわち，そのときに，中国も完全に高齢化社会の国となる．特に北京のような大都市では，この問題はもっと深刻化している．１９８７年に，北京の年寄りはすでに人口の１０．４％を占め，２０３０年に，６０歳以上の年寄りは３８６万人以上となり，人口の約２９％を占める予測が出ている．すなわち，日本のような先進国がすでに直面している高齢者問題は，近い将来，中国にも出てくる．

人口の高齢化は社会の進歩の一つとも言えるが，様々な社会問題も次第に出てくることを伴う進歩でもある．人口問題の専門家らは，中国がこれから高齢化社会に入ることに関して警告をしている．この問題にうまく対処しなければ，大きな社会問題にもなりかねない．中国の政治，経済と文化などの発展に大きな影響を及ぼす事になる．

周知のように，数十年前から中国で一人っ子の政策が国策として進められてきた．今は都市では，殆どの家庭はどこでも子供が一人っ子となっている．その結果，中国での家族構成は４，２，１の形になっている．即ち，高齢の祖父母は４人，中年の夫婦は２人，そして子供は一人となっている．働いている中年夫婦の二人には，上に父母もいるし，下に子供もいる．社会的な保険制度はまだ成熟していない中国の現状では，経済的な支出はもちろんの事，仕事の上に，子供の世話，年寄りの世話などが重なって，容易なことではない．

中国では，家族の絆はもっとも重要であると考えられてきた．それは中国の文化の一つとも言えよう．しかしながら，２１世紀に入ると，高齢化が進み，家庭の規模も段々縮小し，今の一人っ子の親の代は皆年寄りになる．昔のように，一家に２世代か３世代の大家族はもはや歴史の名残となり，子供は大人になったら、経済も，住居も親から独立する．このように，高齢化が進む中国では，他の国々と比べて，孤独な年寄り達の不自由な生活がもっと目立つようになるであろう．

現代社会の中で，年齢層が違っている人々は，生活習慣，趣味などが全く違っているとも言える．このように，Generation gap は大きな社会問題になりかねない．苦労して子供を育てて，年寄りになったら，様々な原因で逆に大人になった子供に虐待されることがしばしば起こる．養老のために子供を育てるということは，多くの人々にとっては，実現できない夢ともなっている．一方，都市の現代化と農村の都市化につれて，高層住宅ビルが立ち並んできた．人々の生活習慣も次第に変わってくる．老人達は閉鎖的な住宅に囲まれ，隣人との交流はほとんどなく，“空の巣家庭”となった家で，子孫に囲まれる楽しみを味わうことがもはや蜃気楼のようになっている．老人達にとっては，物質の面では問題はないものの，精神的な孤独感は増える一方である．

上記の問題に対して，中国の政府，または，社会からの支援システムはまだ成熟してい

ない．養老問題，医療問題等々，深刻化している．たとえば，多くの老人達はまだ比較的貧困な農村部にいる．養老保険のような国からの福祉待遇を受けられずに，個人の貯蓄，または，家族の支援，親友の助けなどで生きている．町に住んでいる老人達は，社会から一定の保障制度があり，農村にいる老人達と比べて，幾分かよくなっているものの，定額の年金に対して急激に上昇する物価の問題，また，かつて勤めていた企業が倒産したため年金がもらえなくなる問題などに悩まされている．

現在の中国では，計画経済から市場経済に変わっている．中国の政府は，様々な問題を抱えて，すべてに対処しなければならない．それ故，高齢者問題はしばしば無視されている． 中国では，高齢者の生活の便利さを考慮した住宅はなく，高齢者のための憩いの場所もほとんどない．高齢者の特殊な需要に応じる都市の建設計画が殆ど考慮されていない．高齢者の生命の安全を保障する施設または措置などが少ないために，高齢者の交通事故が多発している．また，民間の養老施設なども，資金の問題で続けられないケースも多い．このような問題は，中国のように，まだ充分に豊かになっていないうちに，早々に高齢化社会に入ってしまう国にとっては，特に深刻化である．それを解決するには，政府の努力がますます重要と考えられる．

高齢化社会の到来を迎えて，中国の政府は様々な努力をしてきた．例えば，高齢者問題の全国委員会を設け，各地の行政に高齢者問題の窓口などを設置した．また，色々な形の“敬老院”，“託老所”，老人大学などが各地に現れている．このような施設の中で，高齢者達は，同じ年齢層の友達ができ，共通の趣味を持ち，楽しい生活を過ごすことができる．新しい学科の“社会老年学”ができている．養老問題，失業問題，医療保険制度の問題などが政府の議題となっている．社会保険，社会救済，社会福祉などを個人の貯蓄などとつなぎ，社会保険制度ができあがりつつある．

先日，中国中央テレビ局が放映したニュースには，現在中国でもボランティアのティームがあり，行政の指導で，子供がいない高齢者の世話をしたり，教師が足りない山間部の農村に行って，子供達の授業をしたりしていることを話していた．また，北京のような大都市の高校で，大人になったら，ボランティアになろうとするボランティア予備軍を育てているとも言われている．しかしながら，ボランティアと言っても，現在の中国では，まだ政府の行政的な指導で育っている途上である．先進国のように，自発的なボランティアは本当の意味では，まだできていないとも言えよう．成熟したボランティア体制ができるまで，政府の行政的な指導と支援はまだ不可欠であり，そして，マスコミの働きも重要であろう．

2．子供問題

世代間交流を議論すると，若者と中高年との間の交流に限定されがちである．なぜかというと，日本やアメリカのような先進国においては，その問題が顕著に現れているからである．しかしながら，一般の国々と違って，中国の独特な問題も存在している．いわゆる

大人と子供との交流の問題である．大人と子供の間では，communication が歪んだ形で発達している．前にも述べたように、現在の中国では，特に大都市では，殆どの家庭はどこでも子供が一人っ子となっている．4，2，1の形になっている家族構成では，自然に，家族全体の注目が子供に集中する．このことは，子供にとって，幸せの一方で，重荷にもなっている．家族全員の関心が全部自分の一点に集中すると，それに応えることは，予想より大変なことになる．親あるいは祖父母が子供に愛を送ると同時に，要求も出してくる．以下少し例を挙げる． 家から学校まで非常に近いにも関わらず，毎朝，子供を学校の入り口まで送ったり（一般の学校では，生徒以外の人は進入禁止とされている.），午後学校が終わっていないうちに学校の入り口に迎えに行ったりして，また，途中で子供のランドセルを持ったりしている．うちに帰っても，一緒に子供の宿題をする．このように，自立ができない子供を育ててしまう。

著者が北京に住んでいたときに、隣家の子供が小学4年生であった．毎日学校が終わって，家に帰ったときに，挨拶もしない，それどころか，ドアをノックする事さえも分からない．いつも足でドアを蹴ったりして，帰ったことを親に知らせていた．その親は，ごく普通の中国の中年夫婦であった．子供に多くの知識を覚えさせるために，少年センターにある児童英語クラスに子供を通わせていた．家から離れていたために，毎日夫婦交替で子供を送迎していた．真冬のある日，別の用件の序でに，その親の代わりに，私が迎えに行った．教室の前の廊下の風景に驚かされた．暗闇の中に，生徒の親達が大勢いた．廊下では，寒いし，空気も澱んでいた．その親達は，廊下に用意されている数が限られている椅子に座ったり，壁に寄り添かかったり，しゃがんだりして，子供の授業が終わるまで待っていた．待っている間に，男の人はたばこを吸ったり，女の人はセーターを編んだりして，時間を潰していた．子供が寒くならないように，予備の厚着を持っているお母さんもいたし，子供がお腹が空くことを心配して，ケーキなどを持っているお母さんもいた．待っている間に，知り合いの親達はお互いに，子供の状況，あるいは，教育の経験などを交わしていた．事情を知らない人がここに入ったら，きっと間違ったところに来たと思うであろう．しかし，これは，ごく普通の中国の親達のイメージである．どんな苦難があっても，どんな苦労をしても，自分で耐え，子供のために，常に最善を尽くすのである．

一方，中国の文化では，親達は子供が少し大きくなったら，子供にキスしたり，愛撫したりしない．子供を愛しているという言葉も決して口にしない．たとえ心の中でどんなに愛していても．愛という感情は，言葉ではなく，実際の行動で表すべきと考えられている．そして，子供のために，多くの家庭では，普通の家庭の収入には，まだ贅沢に思われるコンピュータを購入し（約半年の収入に当たる），子供にコンピュータのことを勉強させる．また，祝日，休日に休まずに，子供を連れて，絵や，ピアノなどの色々な教室に通う．日常の飲食のほかに，栄養豊富な栄養品を買って，子供に食べさせる．“重点学校”（名門学校）に入るために，大金を支払って，入学させる（中国では，名門学校では，入学試験の成績が若干悪くても，学校に賛助金を支払えば，入学できる．しかし，その賛助金の額は，

普通の家庭の数ヶ月，あるいは数年の収入に当たる）．

このように，家族にただ一人の子供なので，何でも満足させてあげようという親の気持ちで子供を育てて，子供達はどんな大人になるのであろうか？！そのような子供は，家で家事の手伝いもしないし，愛を受けることだけを考えて，愛を他人に与えることを家庭内で，覚えられるチャンスはない．学校にいても，自分のこと，勉強のことばかりを考える．大人になっても，自己中心となり，他人のことを考えずに行動しがちである．そのような子供は大人になっても，決して立派な人間とはなれない．

どんなふうにして，子供が立派な人間に育つのであろうか？これは，多くの中国の親達が考えるべき問題である．子供に知識，技能を教える前に，人間として学ばなければならないことが多くある．近頃，高いレベルの教育を受けた人に，あるいは，豊富な知識を持つ人に，犯罪者になった人は少なくないと報道されている．これは子供に知識のみを重視し，道徳，あるいは，人間としての基本的な素質の教育が無視された悪い結果であろう．

それを改めるには，親として，子供との正しい交流方法を取るべきである．また，学校，特に小学校の教育も非常に重要な役割を持っていると思われる．

現在の中国における学校の教育にも問題がある．“受験教育”が主なる方針となっており，子供達が学校において知識だけを覚えることになっている．例を一つ挙げよう．北京にある小学校の課程設置には，小学生は同時に全部で１１科目の授業を受けている．毎週，体育は２単位（１単位は４５分間），英語，美術，音楽，労働，自然，科学技術，工作，思想道徳の８科目はそれぞれ１単位，そのほか一週間の主な時間は，教室で先生の国語と数学の授業を受けている．毎日８単位の授業を受けた後，学校の特別の指導（ほぼ強制的で，有料）も１時間ある．夜にうちに帰っても，山ほどの宿題があり，殆どの子供は深夜まで宿題をやらなければならない．３年生になってから，中学に入るために，もっと努力して勉強しなければならない．なぜなら，全国各地の中学校はいわゆる“重点”と“一般”の学校に分けてあり，“重点”中学校に入れると，そこの教師のレベルも高いし，周りの生徒のレベルも高いので，将来，“重点”高校に入れる確率が高くなる．そして，いい大学に入り，いい就職ができる．これは，現在の中国の現実であり，親達も，学校側も，子供がいい学校に進学さえできれば，すべてがいいと考えられている．

このような“受験教育”の雰囲気の中で，子供達の心身にわたる全面成長が抑制され，自由な成長，明るい児童の生活はないままで，大人になってしまうとともに，知識だけはしっかり身につけているが，他には何も分からない．特に人間として，もっとも基本的な生き方について殆ど分からない状態になる．このような状況は，一人っ子の家庭の数が増えるとともに，ますます深刻化している．

貧しいことは決していいことではないが，豊かになって，すべてのことは良くなるとも思えない．特に次第に豊かになっている社会の中で，親として，また学校として，子供に対して，どんな形で育てればいいかをよく考えるべきであろう．この意味でも，中国はまだ発展途上国であると思われる．先進国の経験を学ぶべきであろう．

文献

1．王順洪，１９９８年出版，「中国概況」，北京大学出版社，中国北京.
2．赵燕皎，１９９８年出版，「漢語中級教程」，北京大学出版社，中国北京.
3．冯 玥，２０００年出版，“为什么一定要上大学”，「青年文摘」（中国青年出版社），２月号，p. 19.

(2000 年 3 月 31 日　受付)